

環境因子が関与する腫瘍のゲノム解析

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	環境因子が関与する腫瘍のゲノム解析
倫理審査 受付番号	第 倫ヒ244号
研究期間	2014年 9月倫理審査承認日～2024年 3月31日
研究対象情報の 取得期間	下記の期間に呼吸器外科・呼吸器内科を受診された悪性中皮腫の方 2006年 3月22日～2020年 3月31日
研究に用いる 試料・情報	試料等
研究概要	(研究目的、意義) 本研究では、中皮腫と診断され、治療を受けている患者さんを対象として、腫瘍化に関係があるかもしれない遺伝子やDNAの個人差を検索します。それにより新たな治療標的を開拓する、早期に腫瘍を見つけ診断することで予後の改善を図ることを目的としています。

(研究の方法)

「遺伝子」とは、人間の身体をつくる設計図にあたるものです。中皮腫を始めとする「がん」はこの遺伝子に傷がついて正しく機能ができなくなって発症することが明らかになってきましたが、中皮腫ではどの遺伝子に傷がつくのか、まだその全体像はよくわかっていません。近年、技術革新が進んだことで、1つの遺伝子ではなく、ゲノム全域の多様性と病気との関わりを調べることができるようになりました。このような研究では、数多くの試料を扱い、高度な解析機器を使用するだけでなく膨大な量の遺伝情報を収集して腫瘍化に関連する遺伝子を見出します。しかし、中皮腫は罹患者数が少なく、研究が遅れています。そこで、課題番号倫ヒ44「胸腹部腫瘍の長期治療成績に関する分子生物学的研究」で2006年から2020年3月末までに同意書による同意が得られた検体についても、国際共同研究により他の人種と比較しながら、腫瘍化に関係があるかもしれない遺伝子やDNAの特性を抽出します。候補に挙げた遺伝子は、腫瘍化に関わるか否かを動物実験や培養細胞等を用いて機能解析を行います。

(外部への試料・情報の提供)

ハワイ大学がんセンター（代表：Michele Carbone博士）へDNA検体（約500ng）を送付し、遺伝子解析を行います。本学ではDNAは個人が特定できないよう番号などでコード化（匿名化といいます）して研究に使用していますが、再度匿名化（二重匿名化）し、対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。DNA試料は、セキュリティ対策がとられたFeDex等で冷蔵輸送します。解析後のデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。本研究で得られた成果については、匿名化した情報を学会および学会誌等に発表し、公表します。また、ゲノムコピー数や塩基配列データなど得られた研究結果は日本および国際的な公的データベースに登録します。公的データベースを介して研究結果が研究者に利用されることによって、研究全体が推進され、日本および世界における悪性中皮腫の克服のために貢献されることを目指します。

(研究組織)

代表機関：

ハワイ大学がんセンター（代表：Michele Carbone博士）

共同研究機関：

兵庫医科大学（責任者：大村谷 昌樹）、

NYU Langone Medical Center（責任者Dr Harvey Pass）、

Mesothelioma Unit, SS Antonio e Biagio General Hospital（責任者Dr Federica Grosso）、

DRI Research Faculty Institute（責任者Dr Joe Grzymalski）

大阪大学（責任者：岡田 随象）

東京大学（責任者：油谷 浩幸）

MRC-Holland（責任者：Jan Schouten）

(個人情報取扱い)

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報 を 厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

**本研究に関する
連絡先**

兵庫医科大学 遺伝学講座
主任教授 大村谷 昌樹（研究責任者）

TEL | （平日 9 : 00 ~ 17 : 00） 0798-45-6587